

株式会社スタジオ・タブ

知財は差別化のための商品開発を支える大きな力

企業の会報誌や社内報の制作を行うデザイン会社が、社内リソースを生かした新規事業を立ち上げた。企業カレンダーを専門に制作する「CALELABO (カレンダーラボ)」は価格競争の熾烈な業界の中で、独自の提案や商品開発を行い、中小企業から上場企業までさまざまなニーズに応え、好評を得ている。

主な権利

2011年：実用新案登録 第3170192号
2012年：商標登録 第5476369号
2012年：意匠登録 第1458648号
2013年：意匠登録 第1464378号

会社概要

所在地：東京都新宿区下落合 1-8-14-203
電話：03-3364-2310
URL：http://www.st-tub.com
業種：社内報・会報誌や企業向けカレンダーなどの企画・制作
設立：1984年(昭和59年)
資本金：1,000万円



常務取締役：桶田 修さん

これまでの経験を生かし新規事業での差別化をはかる

企業が年末に配布するカレンダーは年々減少し、カレンダー業界では熾烈な価格競争が行われている。そんな厳しい状況の中、2007年に立ち上がった後発のブランドCALELABO (カレンダーラボ)が独自の路線で活路を見出している。

企業カレンダーの多くは、既成デザインに企業名を印刷する名入れカレンダーだが、CALELABOでは「オーダーメイド制作」に注力している。サイズや紙などの体裁はもちろん、カレンダーのコンセプトから提案するサービスは、オリジナリティの高いカレンダーで自社をアピールしたいと考える企業にとって満足度の高いサービスだ。

CALELABOを運営する株式会社スタジオ・タブは、長年、企業の会報誌や社内報を専門に扱ってきた制作会社だ。そのようなコミュニケーションツールは、企業の一方的な情報発信だけではメッセージが読者の心に届かない。受け手の立場

に立った細かな配慮と改良の積み重ねが欠かせないという。体に染み付いたこの制作姿勢がCALELABOにも受け継がれ、差別化の力になっている。

「1冊のカレンダーのために、新しいスタンドを考案したり、数カ月かけて数千枚の写真を撮影することも。カレンダーは宣伝ツールでもあり、日頃の感謝の思いを伝えるツールでもあるので、受け取った人に素敵！と思ってもらえることが大切。企業ならではの魅力的な表現が加われば、企業イメージアップにもなります。だから一つひとつ丁寧に制作していきたいのです」と桶田常務は語る。

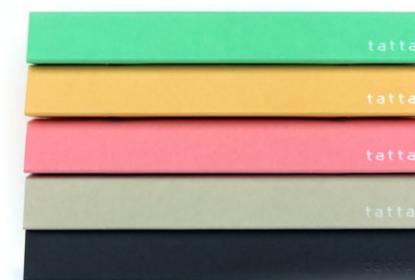
オリジナルスタンドを開発し差別化を加速させる

さらなる差別化のために、独自の商品開発も行っていた。約1年かけて完成したのがこれまでにない新しい形のエコカレンダー「tatta (タッタ)」だ。1枚の厚紙からシンプルなスタンドができる。「建築の出身だからか、構造自体がフォ

ルムになる立体が好きなんです。組み立て前はシート状なので配布しやすいし、組み立てる楽しさを感じてもらえたら嬉しいですよ」と桶田常務。単純な構造なのにしっかりと立つから「tatta」というネーミングにも、同氏の遊び心が感じられる。ただ、一つ大きな問題があった。アイデアは独自のものでも既成の技術で制作できるため模倣が簡単なのだ。それでは差別化できない。コピー商品を防ぐために、知的財産権の取得が必要だった。

商品の価値を守るために重要となる知的財産権を取得

最初は知的財産権について専門書籍やインターネットで勉強していたが、分からないことがたくさんある。いろいろ調べているうちに、知財センターのことを知った。「一度きりの相談窓口なのかと思いました。何度もアドバイスをいただきました。当社のような中小企業にとって、専門家のアドバイスが得られる機関は、とてもありがたい存在ですね」と桶田常務は語る。



紙のみでできた新しい卓上エコカレンダー「tatta」。スタンドは、1枚の厚紙から簡単に組み立てられる。色のバリエーションも24色と豊富。

と桶田常務は語る。

最終的に、新しく開発した卓上カレンダーは、「物体を起立させることを特徴としたスタンド」として実用新案登録をした。微妙にデザインの異なるタイプは意匠登録もしている。また、専門サイト「CALELABO / カレンダーラボ」(www.calendar-labo.jp)の商標登録も行い、実用新案、意匠、商標の知的財産権を同時期にセットで獲得したことになる。

特長を正しく伝えながら広い権利範囲を確保

「実用新案登録の過去の特許文献を読んでいると、知らない言葉や言い回しがいくつもあって。このスタンドは紙の特性を生かした構造なのですが、いざ自分で書いてみようと思うと、言葉で表現するのが難しい。また、表現や言葉の順序の違いだけで権利の範囲が大きく変わるんですね。的確な表現になっているか知財センターにチェックしていただくことができ、本当に良かったと感じ

CALELABO カレンダーラボ



企業向けカレンダーを制作・販売する専門サイト「CALELABO (カレンダーラボ)」。



休日をつなげて表現。連休が視覚的に伝わるカレンダー。



NHK交響楽団様のカレンダー。普段見ることのできない練習所を撮影して制作。



時計メーカーのカレンダー。商品写真を大胆に配置している。

ています。意匠登録の際には、拒絶理由通知書が届き、ショックを受けた時もあります。そのときも何をしたら良いか、登録されるまでサポートしてくださって。取得は知財センターのサポートがなかったら実現できませんでした」と、桶田常務は語った。

商標に関して起きた問題を相手と揉めずに解決

商標を登録したのは、明らかに後発の会社が同じ名称を使うようになり、「同じ会社なのですか？何か関係があるのですか？」という問い合わせが増えたことがきっかけだった。「どう対処するのが適切かわからず、知財センターのアドバイスをもらいました。何を準備して、

相手にはどのようなニュアンスでこちらの意思を伝えればよいかなど、細かい部分まで、丁寧に相談に応じてもらいました。結局は、事を荒立てずに解決することができて本当に助かりました」自社の商標と同じ名前が他社の商品で使われるという事態はどんな企業でも十分に起こりうる。何かあれば相談できる知財センターを知っている強みは大きいという。「カレンダーは生活のそばにあるもの。これからも企業と使う人に喜んでいただける魅力的な商品を考えていきたい。そのためにも知財はとても大事だと考えています。自社の知財が守られている安心感がなければ本来の仕事に集中できませんし、商品の価値を守ることも難しい。知的財産のことは、常に意識していきたいと思っています」と語られた。

知財センターから

実用新案と意匠の組み合わせが有効な場合も

実用新案の出願の相談に来られて、その後、商標の侵害の件などについてもアドバイスをしました。実用新案だけでなく、意匠登録との組み合わせによって、知財をカバーできることもあります。今回のように実用新案、意匠、そして商標と組み合わせるケースは、とても賢明で有効なものではないでしょうか。担当：秋葉原 小澤アドバイザー